令和５年度
環境都市常任委員会行政視察報告書

令和５年５月１６日（火）～　１７日（水）

宮城県大崎市・宮城県石巻市

視　察　報　告　書

次のとおり実施したので報告します。

1　期　　間		令和５年５月１６日（火）～　５月１７日（水）	
2　場　　所		宮城県大崎市	宮城県石巻市
	人口	１２３，６０３人	１３５，８０６人
	面積	７９６．７６平方ｷﾛﾒｰﾄﾙ	５５４．５５平方ｷﾛﾒｰﾄﾙ
3　調査事項		環境都市行政について ・世界農業遺産　大崎耕土について ・こだわり農産物PR推進事業について ・「道の駅おおさき」の運営状況について	環境都市行政について ・かわまち交流拠点整備事業について
4　視察内容 所感等		別紙のとおり	
5　視察議員 氏　　名		【委員長】澤田　敦士 【副委員長】江川　克哉 【委　　員】松島　洋　　椎名　幸雄　　佐々木　豊治 岩井　康　　芹澤　正子	
6　資　料		別添	

令和５年５月２９日

我孫子市議会議長　様

環境都市常任委員会　委員長　澤田　敦士

行政視察報告書

環境都市常任委員会

実施日：令和５年５月１６日　13：30～15：00

視察先：宮城県大崎市

視察議員：松島・椎名・佐々木・岩井・芹澤・江川・澤田

視察目的：・世界農業遺産　大崎耕土について

・こだわり農産物ＰＲ推進事業について

・「道の駅おおさき」について

※大崎市産業経済部　農政企画課　農林企画課よりご説明いただく

大崎市の概要

（１）　市政施行

平成１８年に旧古川市、旧松山町、旧三本木町、旧鹿島台町、旧岩出山町、旧鳴子町、旧田尻町の１市６町が合併し「大崎市」が誕生。

（２）　位置

大崎市は宮城県北西部に位置し、南は松島町に接し北は秋田県、西は山形県と境を接する。市中央部や西部に東北新幹線・陸羽東線・東北自動車道・国道４号・国道 47 号・国道 108 号・国道 347 号・国道 457 号など、東部に東北本線・国道 346 号などが通る。

（３）　面積　796.76 ㎢

（４）　人口　令和５年４月１日現在 123,603 人 人口密度 155 人/㎢

（５）　産業

第一次産業：稲作が盛んであり、ササニシキ、ひとめぼれ、ささ結（東北 194 号の大崎市独自のブランド名）など銘柄米の発祥地である。宮城県の大豆生産（北海道に次いで全国第２位）の約３分の１を担っている。

第二次産業：電子機器工場（アルプスアルパイン古川開発センター・古川第２工場）、精密機械工場（ケミコン宮城）、住宅建材工場（三本木地域・ＹＫＫ　ＡＰ）、醸造業（松山地域・一ノ蔵酒造）など。

視察内容

１．環境都市行政について

・世界農業遺産　大崎耕土について

・こだわり農産物ＰＲ推進事業について

・「道の駅おおさき」について

２．世界農業遺産とは

世界農業遺産は世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を、国際連合食糧農業機関（ＦＡＯ）が認定する制度。

３．世界農業遺産の意義

開発途上国での開発や農業の近代化（技術の進歩）によって、以下のような問題が発生した。

① 伝統的な農業や農法の喪失
② 環境問題（森林破壊、水質汚染など）
③ 地域の独自性が失われる（生物、景観、文化など）

そこでまだ世界に残っている、「お手本」となるような農業を認定することにより、世界的に重要な農業のしくみ（システム）を遺産として守り、未来に残す。

４．世界農業遺産となるための５つのポイント

① 食料と生計の保障
　・食べ物をつくり生活がきちんと成り立っている
② 農業生物多様性
　・生きものや自然にやさしい
③ 地域の伝統的な知識システム
　・伝統的な知恵や工夫、技術が受け継がれている
④ 文化、価値観及び社会組織
　・独特な文化、価値観、社会組織が受け継がれている
⑤ ランドスケープ（景観）の特徴
　・陸地や海の独特の風景が残されていること

５．大崎耕土について

約４００年間、米や大豆を当時からの水管理システムを維持しながら生産し続けている。維持できた理由として以下の仙台藩の農業経済政策が挙げられる。

① 約４００年前、伊達政宗公が治水・利水・新田開発を展開
② 「大崎耕土」が豊かな水田農業地帯に
③ 買米制度を創設し、石巻港から江戸へ「本石米」を呼ばれ江戸の米消費の１/３を担ったと言われる

評価のポイント

① 中世以降、脈々と受け継がれる巧みな水管理基盤

② 営農と暮らしを支えてきた伝統的な社会組織「契約講」による人々のつながり

③ 厳しい自然条件を克服するための暮らしの知恵屋敷林「居久根」生活の知恵と水田、水路がおりなす豊かな生物多様性と独特の景観

6．こだわり農産物PR推進事業について

環境保全、安全・安心、地域の文化や技術へのこだわりをもって、「大崎市こだわり農産物」と呼んでいる。農産物や、それを使った取り組みを行う飲食店などに「大崎市こだわり農産物マーク」を使用してもらい、大崎のシティーセールス、農産物の販売促進、地産地消の推進に役立てている。自然共生三志米、ＪＡの環境保全米、みやぎの環境にやさしい農産物認証米、有機ＪＡＳ米などが、「大崎市こだわり農産物」となっている。

7．「道の駅おおさき」の運営状況

以下の整備方針により運営されている

① 私たちの「安全・安心」を支える道の駅（休憩機能、防災機能）

② シティープロモーションによる交流の推進（情報発信機能）

③ 「まちの元気を創造」する道の駅（地域連携機能）

○利用開始：令和元年７月５日

○面積：9,072 ㎡

○指定管理料：年額8,900,000円

○入込数：令和２年度315,504人、令和３年度324,762人、令和４年度約83万人

○売上額：令和２年度192,862（千円）、令和３年度210,813（千円）令和４年度約260,000（千円）

8．所感

大崎耕土では、厳しい自然条件に適応した農業システムによって水田湿地の環境が継承されてきていることと相まって、カメムシ等の水稲の害虫を捕食するカエルやクモなどの有用な生き物（土着性天敵）の生息環境が安定的に維持され、水田と生きものの共生関係が形成されている。また、これらの関係性を活かして、積極的に病害虫を管理する取り組みを行っている。

また、生息環境が激減した日本において稲の落ち籾を目当てとする１０万羽に及ぶマガンの越冬が支えられ、マガンからは排泄物として有機物が水田に

供給されるという共生関係にある。

我孫子市においてもそのような共生関係を構築することにより、農薬・化学肥料への依存を抑制することが想定され、安心・安全な米作りが期待できる。

また農家の高齢化・担い手不足には、児童・生徒へのハンドブックの作成・配布、農業体験により農業へのやりがい教育を実施し、担い手不足を補っている。我孫子市においても、そのような取り組みによって、すこしでも担い手不足を補えるような環境整備を期待する。

実施日：令和５年５月１７日　10：00～11：30
視察先：宮城県石巻市
視察議員：松島・椎名・佐々木・岩井・芹澤・江川・澤田
視察目的：「かわまち交流拠点整備事業」について
※石巻市　産業部　商工課　建設部　整備推進課よりご説明いただく

石巻市の概要

①　市政施行：平成１７年４月１日

②　位置

石巻市は、宮城県北東部にあり、仙台市に次いで県内第二の人口を擁する。

③　面積　554.55㎢

④　人口　令和５年４月１日現在 135,806 人

⑤　産業

旧北上川右岸から西側の河南地区、桃生地区は仙台平野の東端部に位置し、石巻平野と北上川がもたらした肥沃な土壌から稲作を中心とした農業が盛んである。一方の旧北上川左岸から東の地域は北上山地とリアス式海岸によって複雑な地形をしており、平地が少ないため農業は西部と比べて割合は低い。東部では漁業や石巻湾内での養殖業などが盛んである。市の中央部の上品山には牧場があり、周辺では畜産業も行われている。

金華山沖（三陸沖）は、黒潮（暖流）と親潮（寒流）がぶつかる潮目として世界三大漁場の一つとなっており、200 種類以上の魚が獲れる。漁場に近い本市は全国でも有数の水産都市となっており、石巻漁港の 2019 年の水揚げ量は約 10 万トンで日本国内第５位である。

１．視察内容：環境都市行政について

・かわまち交流拠点整備事業について

２．かわまちづくり事業開発の経緯

・平成２３年３月の東日本大震災で、石巻市は大きな被害を受けました。震災当時、石巻市の中心部の旧北上川は、無堤防区間で、河口から近いこともあり、津波が旧北上川からも溢れ石巻市街地が浸水し大きな被害をもたらしました。

大きな被害を受けた石巻市ですが、震災から１０年を超える期間を経て、無提部であった地区には令和３年度に堤防が完成し、併せて「かわまちづくり」としての整備も完了し、住民への安心を確保するとともに、新たな観光の場、交流の場として賑わっています。

３．かわまちづくりの特徴

・堤防整備（国）とあわせ背後に公共施設（市）や民間店舗を設置

・建物と堤防が一体となった水辺空間を創出し「憩い・賑わい」の場として利活用（堤防に盛土し、最大１７ｍの空間を創出）

４．かわまち交流拠点施設概要

① いしのまき元気いちば

敷地面積：2004.35 ㎡

延床面積：1932.59 ㎡

施設概要：１階　鮮魚　土産品販売等　２階　レストラン（フードコート）

来場者数：令和２年度　1,037,203 人　令和３年度　1,148,985 人　令和４年度　1,349,017 人

② かわまち交流センター

敷地面積：722.20 ㎡

延床面積：747.14 ㎡

来館者数：令和２年度　49,452 人　令和３年度　64,301 人　令和４年度　101,838 人

５．「かわまち大賞」受賞

全国の「かわまちづくり」の中から、他の模範となる先進的な取り組みとして、国土交通大臣が表彰する「かわまち大賞」を石巻地区かわまちづくりが受賞しました。

６．所感

かわまち交流拠点施設は東北一の大河である旧北上川流域に存在し、年間100 万人の来場者があることから、関東一の大河である利根川に面した我孫子市においても、その河原の大きさを活かしたまちづくりにより、我孫子市を訪れる人数を拡大することが期待できる。

また「石ノ森漫画館」が旧北上川の中州にあることにより、街の活性化に役立っている。我孫子市においても、志賀直哉、武者小路実篤、柳宗悦、バーナードリーチなど、多くの著名人ゆかりの地となっている。そのような特徴と水辺空間である手賀沼をもっと有効活用することが期待される。